

登戸学寮ニュース

第 12 号 2022 年 5 月 10 日発行

—新年度を迎えて—

理事長 小島 拓人

登戸学寮創立者の黒崎幸吉先生は「登戸学寮に対する私の希望」として以下を述べておられました。「学生として唯幸福に愉快に勉強するだけが凡てでなく、正しい人間となり、正しい生活をし、それによって同胞や隣人更に進んで全人類に対し、出来るだけの貢献を為し奉仕すること、唯神の目に『善かつ忠なる僕』として映るような人が多く輩出し、日本全国、否全世界に、登戸学寮出身という事が、そのままその人の人格の証明になる様な寮になってほしい」（「方舟」第 4 号、1962 年 12 月）。また、以下のご発言もありました。「卒業後の就職等について、本学寮の（在籍）証明が採用先の絶対的信用を勝ち得るようにしたい」（「登戸学寮創立記」P40）

登戸学寮が創立 60 年余を経た今日、先生のご期待にどこまで応えられているか、卒寮生の一人として甚だ忸怩たるものがありますが、黒崎先生が期待された人材が今日の日本に求められていることに異論はないでしょう。今般創設した黒崎幸吉賞はそうした学寮の存在意義を再確認する試みでもあります。

学寮は今年も新入寮生を迎える季節となり、新年度の寮生数は 35 名（定員 39 名の 90%、昨年と同数）、フレッシュさに溢れた新入寮生 9 名と共に新しい歩みを始めました。新型コロナウイルス対応は、当初目指した「ゼロコロナ」から「ウィズコロナ＝コロナとの共存」の段階へと変遷しています。当寮も寮生が寮外で感染したケースが出てきましたが、寮内でのクラスターの発生は抑えられています。これからも千葉寮長の指導の下、共有スペースの各種感染対策、寮生の高い問題意識により、寮内こそが感染症に最も安全な空間であるというモデルケースを目指して行きたいと思えます。

2 年余になるウイルスと人類の戦いの新型コロナウイルス災禍に加えて、昨今世界を巻き込んだ冷戦下に逆戻りする国と国との戦いが勃発し、先きますますます不透明な今日ではありますが、それであればこそ、登戸学寮は黒崎先生のご期待の意味するところを再確認し、学寮の存在意義を改めて問い直しつつ新年度の寮事業を推進いたしたく存じます。

特集 寮生十色／新入寮生紹介

新年度を迎えて 1	黒崎幸吉賞選考員会規程等 7
近況報告/在学大学等名 2	理事会・評議員会報告 8
寮生十色/新入寮生紹介 3	寮友会より 10
聖書の言葉 4	大島恵美様を偲ぶ 10
新理事紹介/コラム俳句鑑賞の手引き 5	卒寮生インタビュー 11
黒崎幸吉賞・HCD 報告 6	寄附者名簿 12

コロナをめぐる近況報告

コロナウイルス感染症に全世界が翻弄される生活も2年以上が経過しました。ウイルスは様々に変異し、2021年末には遂にオミクロンと名付けられるほどにバリエーションを広げました。この2年間、学寮は完全個室であることに加え、マスク着用の徹底、手洗い、うがいの呼びかけ、食堂に一人ずつのスペースを区切るアクリル板を早期から設置、高性能の空気清浄機を各所に導入するとともに換気を徹底(真冬でも窓を開放)、抗原検査を随時実施、自動水栓(温水)を各所に設置するなどの方策により感染者を出すことなく経過しておりました。

しかし2021年末に南アフリカで確認されたオミクロン株はあっという間に地球上を席卷し、登戸学寮にも遂に到達。2022年1月半ば、一人目の感染者が確認されました。出身地の成人式に参加して感染、そして二人目の感染者はアクリル板を隔ててお向かいで食事をしていた寮生。三人目は1月末、所属する教会での活動中、教会員の子弟からの感染、四人目は2月に入ってから、いわゆる市中感染。悔りがたい感染力を憂慮したもののその後寮生に感染者を見ることはありませんでした。ちょうど学年末の試験、実習、国家試験の直前にあたる日々と重なり、寮内での感染拡大は個々の将来へ何らかの支障を来す可能性もある時期でしたが憂慮が杞憂となり何よりでした。

それぞれの感染者は直ぐに体調の変化を連絡してくれましたので即刻、最寄りのクリニックで検査。同時に卒寮生でもある理事の白石医師に報告、相談し、寮内での対応、待機期間などに関して適切な助言をいただき、感染者は洗面、トイレ、浴室を区別して使用、食事は自室に差し入れ、10日間の自室待機期間を過ごしました。なかなか快癒しない執拗な咽頭痛に感染者全員が悩まされ、

呼吸が困難に感じられたり、体温が日によって上下する者もいて、決して軽症では済まない病気であることを認識しました。一方、LINEをはじめ様々なSNSの活用により対面することなく連絡をとりあい、様子を確認し、情報を収集することができるため感染者自身が孤独に陥ることなく待機期間を過ごしていたように見受けられました。

寮内での感染を防ぐため、朝拝、日曜日の礼拝はオンラインで行い、使い捨て食器を使用した食事を自室でとることを2月の閉寮期間まで継続、卒寮式も完全オンライン開催となりました。自室待機期間中の人も帰省中の人も自室から出たくない人も遠方の人も気兼ねなく参加できるよい機会となったのは怪我の功名といえます。ほぼ2カ月間、朝拝で顔を合わせることもなく、朝食、夕食ともに全員が食事を自室でとることになり、寮内は真冬の静謐な空気と時間が終始流れることになりました。しかし寮生同士の対面での交流はほぼ皆無、5人の寮生はそのまま卒寮式を迎えることになったのは大変残念なことでした。

とある日の朝拝を担当した寮生。高校時代は人と話することなく一日を終えることもありコミュ障を心配されていた、しかし学寮で過ごす間に会話をすることが自然なことになっていたことをコロナ禍により人との接触が制限される中で気が付いた、人との会話がなくなったことに不自然さを感じ、発声時に必要とされる筋肉が退化していくような気もしていると大学での専門的な学びに関連した見解も付加された興味深いスピーチをしてくれました。

4月からの新年度、コロナとともに生きることは忌避できません。感染症への対応はこれまでと同様、各自の心構えによるところが大きなことに変わりはないことでしょう。 千葉美佐子

寮生の在学大学等名 (50音順) 太字は今年度新入寮生

男子寮 (20名)	女子寮 (15名)
桜美林大学リベラルアーツ学群、慶応義塾大学商学部、成城大学経済学部、 専修大学人間科学部 、専修大学文学部(2名)、玉川大学農学部、玉川大学大学院農学研究科、田園調布学園大学人間福祉学部、 東京大学理科一類 (2名)、 東京藝術大学音楽学部 、日本大学危機管理学部、HAL東京、PAZ Bible College、明治大学理工学部(3名)、明治大学大学院理工学研究科、和光大学現代人間学部	青山学院大学文学部、慶応義塾大学法学部、恵泉女学園大学人文学部、聖マリアンナ医科大学医学部、 洗足学園音楽大学音楽学部 、玉川大学農学部、田園調布学園大学人間福祉学部、 東京大学文科三類 、東京家政大学家政学部、日本女子大学人間社会学部、 明治大学農学部 (1名、2年生1名)、明治大学理工学部、明星大学人文学部、 和光大学表現学部

寮生十色

今年度は新入寮生 8 名と韓国からの再入寮生 1 名（3 年次）、計 9 名の寮生を迎え、現在 35 名の寮生が寮生活を送っております。今回、「①大学や寮生活の抱負」、「②好きな○○」について新入・再入寮生に伺いましたので紹介いたします。

小林侑真 岡山県

- ① 色々なことを楽しみたい
- ② 好きな食べ物：納豆

オンハンピツ ソウル

- ① 必勝します！
- ② 好きな言葉：ダイヤモンドはそう簡単に美しくならない。

牧 真人 愛知県

- ① 音楽を愛せるようになる！
- ② 尊敬する人：バッハ

曾我大輔 東京都

- ① のびのびと過ごしたい
- ② 好きな言葉：浅い川も深く渡れ

原島寛之 岡山県

- ① 毎日を大切に過ごす。
- ② 好きな色：黄緑



入寮式（4月10日）中庭にて

道下朱理 岩手県

- ① 行動で示す事が出来る人になりたいです。
- ② 好きな漫画：ハイキュー!!

川嶋すず菜 長野県

- ① 人との繋がりを大切にし、楽しくすごしたい
- ② 好きな色：黄色

吉野 泉 大阪府

- ① 無理はしすぎずに頑張りたいです。
- ② 好きな言葉：成功は決定的ではなく、失敗は致命的ではない。大切なのは続ける勇気だ。

井村咲月 愛知県

- ① 規則正しい生活を送り、夢に一步でも近づけるように精一杯頑張りたいです。
- ② 好きな色：黄色

新入寮生紹介 原島寛之さん

（東京大学教養学部（前期課程）理科一類）

入寮課題作文「内村鑑三の『後世への最大遺物』を読み」から抜粋

大学選びや進路選択する上で、千載青史に列するを得んとすることは、度々考えていました。例えば、材料工学を専攻し、人々の生活を一新するような新素材を開発する。例えば、エネルギー工学を学び、変換効率を改善した再生可能エネルギーの回収方法を確立する。例えば、高度な情報技術を身につけ、起業し、自らのアイデアを社会に投影する。そういった壮大な夢は、現実味のない野望だと思いつつ同時に、社会への貢献を大義名分にした富と名声への欲求ではないか、とっていました。

しかし、「後世への最大遺物」を読んで、この考えは少し変わりました。後世に名前や金を残そうとすること自体は卑しいことではなく、世の中を善く変えていこうとか、生きて証を残そうとする

前向きな感情だ、という考えに納得したからです。目的を持って蓄え、意味のある使い方をしていきたいと思います。（中略）

最後に、最大の遺物は残した事業や思想そのものではなく、それを生み出した過程にあたる生き様そのものだ、という結論をうけて、再び自分の進路、理想の人生について考えました。僕の興味関心のある分野として、情報・機械系の先端技術と生物学があります。前者では情報技術やロボット工学を学び、就職或いは起業して、エンジニアとして先端技術の発展に貢献し、後者では生化学や生理学を学び、生態模倣で新技術を開発したり、生命原理の解明に挑んだりしてみたいと思っています。どちらの選択をしても、自分の好きな分野で社会に貢献することが理想です。

聖書の言葉 福音と剣 — soft power による hard power の秩序づけ

「私は汝らに平安を送る、世が与えるのではない仕方で平安を与える。心を騒がせるな、怯えるな」(ヨハ 14:27)。

この春、剥き出しの暴力を目の当たりにして、その対極にある平和の君イエスを仰ぎ見る。彼は強い者には仕えることを促し、柔和と謙りの究極の soft power を纏い、驢馬の子に乗り入城する。「娘シオンよ、踊れ歓呼の声をあげよ。視よ、汝の王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた、高ぶることなく、驢馬の子に乗ってくる。エフラ イムから戦車と軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ、諸国民に平和が告げられる」(ゼカ 9:9)。

福音と剣の関係はいかに？理不尽な殺戮に極まる人間とは何者か？この問いは魂の明晰さ、受動の深さ、霊性、その最先鋭地点における魂の総合的な力の結集を要求する。柔和力が力の政治を秩序づけうるのかが試されている。「愛を介して働いている信が力強い」(ガラ 5:6)。

「Putin よ、何を恐れる、私と直接交渉せよ隣人だ」と呼びかけ最前線で同胞を鼓舞し続ける者の潔さと宮廷で国営航空美女に囲まれ空しい言葉を弄する者の放つ偽りの腐臭、両大統領の魂の著しい対比は人類の光と闇を象徴する。一時委託された「カエサルのもの」は畢竟万物の統帥者「神のもの」であるように、ひとの責任ある自由は相対的自律に留まる(マタ 22:15)。為政者が自ら端的自律と錯誤する時、「神の怒り」は罪への「引き渡し」であり、欲望に任せる(ロマ 1:18)。イエスは命令に従背可能な中立、自律的な人間社会を引き受け戦争から目を背けず、「先ず神の国とその義を求めよ」と信仰に招き、福音のもとに律法と社会を秩序づける信の根源性を生き抜いた(マタ 6:33,5:25, ルカ 22:37)。

「汝らの肉の弱さ故に人間中心的に語る」ことがあり、「汝らの心の頑なさ故に」離縁が許される。軍備や裁判等肉への譲歩は弱さと頑なさ故になされる(ロマ 6:19,マタ 19:8)。ひとはどこまでその譲歩に甘えるのか。山上の説教に従った人々は肉の弱さを乗り越え、その霊によって貧しく、その心清く、「天の父の子」として神との正しい関係においてのみ満たされる心を持つに至る。

SNS の時代、戦場に soft power が際立つ。別れに母に抱かれ父の兜を叩き続ける幼児、侵入敵兵を胆力で追い返す老夫婦、柔い歌声で避難所を慰

めで満たす少女。この独一無比の魂をもつ無辜の民を守るべく、不屈の精神で hard power により抵抗する兵士、この状況でそれ以外に為す術はあるのか。

2021年12月
クリスマス
礼拝



希望、闇に光輝く

イエスは弟子の伝道派遣時と自助以外に術がない時、異なる命令を与える。「さあ行け、財布も袋も持つな」(ルカ 10:3)、「今は、財布を持って、袋も。剣を買え」(ルカ 22:36)。主の命令は状況に応じて変わるが、愛を介する信の普遍妥当する命令のもとに一切が秩序づけられる。愛の故生命を賭す不可避の状況がある。捕縛時、イエスは愛敵の憐みのなか官憲を癒した。弟子に剣で主を守る機会を与えたが、皆逃亡した。イエスは無抵抗を貫いた。「汝ら立ち帰りて静かにせば救いをえ、平穩にして依り頼まば力をうべし」(イザ 30:15)。苦悩に沈む時、理性や良心は麻痺する。冷静に見究め、心魂の根源的態勢である信に立ち帰るとき、愛と正義、憐みと公正が力強く動き出す。

各人の与件により実践は異なるが、誰もが Putin 的な救い難きわが身を抱えている。今こそ柔和力の究極の主を仰ぎ、悔い改め、われらの外に明確に立つ福音に立ち帰ろう。イエスご自身は神の子の信の従順を貫き磔られ、神の前の救いを確立した。神はイエスの信の従順を嘉し死から甦らせ永遠の生命を歴史に確立された。

「汝が汝自身の側で持つ信仰を神の前で持つ」(ロマ 14:22) と自らの責任ある自由を神の前の事柄に結び付けるよう命じられている。その神の前とは贖罪と永遠の生命であり、信の対象である。この永生による平安はこの世のものとは異なる。神の前と人の前の今・この人格上の分節は「キリストを引き裂くことだ」と宗教改革者は拒否し聖霊の執成しを常に求めた。肉の弱さへの譲歩に胡坐をかくことなく、目覚めおり信に立ち帰り、共にい給う柔和と謙遜の主の軛に繋がれ真直な道を共に歩もう。「雄々しかれ、われ既に世に勝てり」(ヨハ 16:33)。 千葉恵 (3月15日記)

新理事紹介 福嶋 美佐子さん

2021年6月に就任した福嶋です。歴史ある登戸学寮の運営に携わる機会を与えていただき、光栄に存じます。

奈良と金沢の小学校、金沢と北海道の中学校、北海道と千葉の高校に通いました。これらの地域出身の方、ぜひ声をかけてください。学部（東京女子大学）、修士課程（アメリカン大学）とキリスト教系大学で社会学を学び、米国合同メソジスト教会で受洗しました。現在は、日本基督教団銀座教会員です。

帰国後に博士号を取得し、いくつかの大学で非常勤講師を務めています。学生から様々な相談を受けることから、職業選択や能力開発に関する相談・助言を行う専門職の国家資格キャリアコンサルタントも取得しました。

また、途上国の教育支援を行う特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンの副理事長を10年近く務めています。いくつかの国際NGOと共に行ったロビー活動は、国連SDGsターゲット16.2「子どもに対する虐待、搾取、人身売買、



あらゆる形の暴力や拷問をなくす」の採択に結びつきました。現在は、こども家庭庁の創設に合わせて、子どもへのオンラインによる性的搾取罰則化

への法整備を促そうとしています。被害者の多くが寮生世代の社会問題ですので、一緒に学ぶ機会を持つことができればと思います。

ホームカミングデーで初めて学寮を訪ね、寮生がのびのびと暮らしていることに感銘を受けました。登戸学寮は、一般的な三食ベッド付の学生寮と全く異なり、温かな寮長ご夫妻の下で仲間と共に大きく成長できるCollegeです。私も上記のような経験やキャリアコンサルタントとしての知識を活かし、「登戸学寮での日々が人生の基盤となった」と寮生に振り返ってもらえるよう、Collegeの一員として貢献したいと存じます。徒歩0分のキャリアサポートセンターとしても気軽に頼ってもらえれば嬉しいです。

コラム 俳句鑑賞の手引き

俳人（学寮OB） 岸本尚毅

小説家、詩人、俳人などと文芸の作者がジャンル毎に専門化したのは比較的新しいこと。以前はどうだったかというと、芭蕉は「奥の細道」などの散文を残しました。詩人で小説家でもあった室生犀星は俳句もなかなかのもの。子規は短歌俳句の二刀流。複数の表現手段を持っていた文学者は、それらをどう使い分けていたのでしょうか。

軍医部長であった森鷗外は、日露戦争の陣中で詠んだ詩歌をまとめた『うた日記』を残しました。収録作品は短歌三三一首、俳句一六八句、新体詩五八篇、訳詩九篇、長歌九首。新体詩の一節はこんな具合です。――父母よ妻よ子よ／あはれなり胸の血の／なごりのゆらぎ／熱もゆる唇ゆ／もれいづるぷろしゆちやい――負傷したロシア兵の臨終を、深い同情を以て詠んでいます。こんな短歌も詠んでいます。――黄なれども 同契の 神の子を志へたぐる汝 志ろきわざはひ――同じ神の子である黄色人種を虐げるロシア人よ、お前こそ（黄禍ならぬ）白禍ではないか、というのです。鷗外にとって、新体詩や短歌のような長い形式は「述志」の形式でした。いっぽう鷗外の俳句はどうだったか。――米足らで 粥に切りこむ 南瓜かな――粥という戦場に、米（精鋭部隊）が足りないの南（頼りない応援部隊）が切り込んだ、というのです。この句には、鷗外の案外お茶目な一面が現れています。ただし、鷗外の米信仰のため多くの兵士が脚気で死んだことを思うと、笑えない俳句ではあります……。

（参考文献 岸本尚毅『文豪と俳句』集英社新書）

第一回「黒崎幸吉賞」授賞式・講演会

昨年11月20日（土）、午後3時より登戸学寮において、記念すべき第一回目となる「黒崎幸吉賞」の授賞式と受賞者による講演会が開催されました。登戸学寮では初めての試みとなるZoomでのオンライン配信も準備され、会場13名+寮生、Zoom20名の方にご参加いただきました。

第一回の受賞者は石原昌武氏（1963年入寮）と木原共氏（2012年入寮）で、賞状授与の後、お二



石原昌武氏への賞状授与（代わりに受け取られる石原和義氏）

人からご講演をいただきました。両氏とも会場への出席はかないませんでしたがりモートでご参加いただきました。会場には登戸学寮の卒寮生でもある石原氏のご長男・石原和義氏がお越し下さり、講演内容を代読されるなどしました。

両氏の講演に対し、参加者からは「大変感銘を受けた」「素晴らしかった」「主の恵にあずかるあゆみをお聞きして勇気があります」「シニアとヤングの両方が受賞したのは、今後の黒崎幸吉賞のためにも賢明な選択であった」といった感想が寄せられました。



木原共氏による講演

この黒崎幸吉賞が今後ともこの世的な名誉とは別の永遠の相にあって、登戸学寮の存在意義を証しするものとして継続することを願います。

受賞者の木原共氏のお母様より、後日寮にメールをいただきました。一部抜粋してご紹介いたします。

登戸学寮が多くの方々の祈りによって支えられ導かれていることを改めて知り、感動しました。初めて親元を離れての多感な学生時代をこのような学寮で生活させてもらい、卒業後もこのような素晴らしい賞を頂き、繋がらせていただけていることを有難く思いました。登戸学寮の建てられた経緯を朗読劇で見させてもらい、「あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方」（ピリピ人への手紙2章13節 聖書新改訳2017）に想いを馳せました。心から感謝して。 木原幸代

ホームカミングデー開催

第一回黒崎幸吉賞授賞式・講演会終了後、午後4時10分より、ホームカミングデーが開催されました。昨年度はコロナで開催できず、1年ぶりとなるホームカミングデーでした。授賞式・講演会に引き続き、Zoomでのオンライン配信が行われ、遠方の卒寮生やその家族も参加（視聴）することができました。

寮生活動支援報告会では、山田聖義さんが東北地方の伝統工芸であるホームスパン（手紡ぎ、草木染めの羊毛を用いた織物）の工房見学から見てきたことについて、また日本歌謡曲コンクールに参加した青野道さんが、歌を通して自分らしさを表現することについて発表しました。その後、音楽愛好家の寮生によるトランペットやギターの演奏、有志によるコーラスがあり、会場を沸かせました。



朗読劇「枳形山にて天を仰ぐー登戸学寮誕生物語ー」では、12人の寮生が千葉恵寮長執筆の脚本をもとに、黒崎幸吉などの役になりきって朗読をしました。また、朗読の進行に合わせて、寮の建設時の写真など歴史を語る写真も多く紹介され、当時は懐かしむ参加者もいました。

会場の参加者とZoomでのオンライン参加者との交流をどのように図っていくかなど課題はありますが、ホームカミングデーの新しい在り方を模索する会ともなりました。

「黒崎幸吉賞」選考委員会規程と委員について

「黒崎幸吉賞」の第二回以降の選定に当たり改めて選考委員会規程の整備と新委員が選任された。

公益財団法人登戸学寮「黒崎幸吉賞」選考委員会規程

(目的)

第1条 この規定は公益財団法人登戸学寮（以下、登戸学寮という。）の「黒崎幸吉賞」選考委員会に関して、必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 選考委員会は原則として理事会および評議員会・寮友会の推薦に基づき理事会において承認された委員10名をもって構成される。

2 委員長は互選により定める。

3 委員の選任にあたっては男女比、年齢比等に配慮する。

4 選考委員会に顧問（2名以内）をおくことができる。

(任期)

第3条 選考委員の任期は原則として2年とする（再任は妨げない）。

(業務)

第4条 選考委員会は以下の業務を行う。

(1) 「黒崎幸吉賞」候補者推薦依頼状の配信・発送

(2) 候補者応募書類の取りまとめ

(3) 授賞候補者選考結果の理事会への報告

(改廃)

第5条 この規定は理事会の議決を得て改定することができる。



第一回「黒崎幸吉賞」授賞式の様子

附則 1. この規定は2022年4月1日より施行する。

今年度の選考委員：2022年3月の理事会において次の10名が選任された。

従来の6名の委員（小島拓人、千葉恵、鷲見八重子、大谷恵、福島美佐子、織田千尋）及び寮友会から2名（岸本尚毅、副島浩）、新たに評議員から2名（浪川優希、早川嗣）、顧問として2名（黒崎稔、千葉美佐子）。

第二回「黒崎幸吉賞」推薦お願い

第二回「黒崎幸吉賞」の候補者推薦をお願いいたします。

推薦者は、当寮出身者、寮長・役員経験者および当寮の設立の趣旨を理解する方とします。

候補者の対象は、当寮の設立の趣旨に照らし次のような方を対象とします。

例1 当寮在籍経験者であり、社会活動・芸術文化等の分野で活躍している方、または活躍が期待される方

例2 当寮の設立の理念を理解し、当寮を支援してこられた方

推薦方法については、所定の推薦書（HPから取得）により、メール添付または登戸学寮千葉恵寮長宛てに一部送付願います。参考資料などは説明を付け推薦書に同封してください。（書類一式は返却いたしません。）

締め切り：2022年8月31日（消印有効）

問い合わせ：✉ noborito@gakuryo.or.jp ☎ 044-933-0819

理事会・評議員会 報告

1. 理事会、評議員会の開催

公益財団法人登戸学寮の定例理事会及び評議員懇談会は2022年3月12日(土)午後2:00~4:30にZoom会議形式で開催されました。以下に主要議事内容について報告します。

2. 2022年度事業計画及び予算

2022年度事業計画と共に、別表の通り、新年度予算が承認されました。

1) 事業計画について

新型コロナウイルス対応、黒崎幸吉賞第2年度展開、寮生確保(本年度期初36名目標)、周年寄附から各年度寄附への重点シフト、キャリアコンサルティングも含む寮生生活の拡大、各種インフラの充実、理事会、評議員会、寮友会の相互連絡・連携の強化、寮生支援金の見直し、卒寮生との各種連携活動を盛り込み、年間行事として聖書講義(年35回)、講演会(随時)、ホームカミングデー、「方舟」編集刊行、スポーツ・レクリエーション会、寮生寮外活動支援、入寮式・卒寮式、防災訓練、寮生大会2回、クリスマス会などの諸行事を計画する。

2) 2022年度予算、資金調達、設備投資、今年度の各種積立金

・今年度の収支実績見込を踏まえ、次の主要算定要素を前提に算定した来年度予算案について、審議の上、了承を得た。〈事業活動収入では〉①寮費は寮生数の年間平均35名を前提、②寄附金収入は最近の動向を反映、③特定費用準備金の取崩しは寮生生活活動支援費及び黒崎幸吉賞副賞費への充当分を計上、〈事業活動支出では〉④人件費総額として事業活動収入の約3割相当(約1000万円)を計上、⑤賄い材料費は寮生数増加を反映(賄い材料費と賄い人件費の合計が概ね食費収入に相当)、⑥コロナ感染防止対策費として、今年度実績を勘案して計上(60万円)、〈投資活動支出では〉⑦特定費用準備金、修繕等積立金及び建物再建積立金について、それぞれ今年度積立額と同額を計上。事業活動収支と投資活動収支を合わせた当期収支差額は、約140万円の黒字となる。

- ・資金調達及び設備投資については、固定資産取得費として空気清浄機、パソコン購入費等60万円を計上したものを県に対して電子申請様式に従って報告する。
- ・各種積立金の今年度積立金額について、今年度末当期収支差額の実績見込の黒字を確認し、特定費用準備金50万円、修繕等積立100万円、建物再建積立370万円、合計520万円の積立を年度内に行うことが了承された。

3. 特記事項

- 1) 「黒崎幸吉賞」の今後について
選考委員会規程を新たに設け、新年度の選考委員10名、顧問2名を選定した。
- 2) 内規改版
民法改正(4月1日から成年年齢18歳)に伴う入寮契約書等の内規改版を行った。
- 3) 建物再建積立計画
新公益財団法人移行時に立案した建物再建積立金計画の検証を行い、数十年後に行われるであろう再建時の参考資料として記録を残した。
- 4) その他
金井守理事が去る3月19日にご逝去され(享年69歳)、3月23日に千葉恵寮長の司式で告别式が行われました。同氏のご冥福をお祈り申し上げます。



霧雨の中の花見(4月3日)
生田緑地の岡本太郎美術館前



入学式へ向かう寮生



中庭のライラック

2022年度(令和4年度)予算(収支ベース)

2022.03.12

(単位:円)

科目	(A) 2021年度予算額	2021年度実績予測額	(B) 2022年度予算	(A)と(B)の差異	備考
I 事業活動収支の部					今年度実績予測の反映
事業活動収入					
基本財産運用収入	0	0	0	0	
入寮費収入	1,050,000	1,500,000	1,350,000	300,000	15万円×新入寮生9名(再入寮1名)
寮費収入	25,050,000	26,700,378	28,920,000	3,870,000	期初36、退寮2名と仮定、平均35名
寮費収入(室料)	15,140,000	16,173,833	17,160,000	2,020,000	
寮費収入(食事代)	5,080,000	5,354,779	6,300,000	1,220,000	2万×35人×9か月
共益費等寮生徴収金	4,830,000	5,168,666	5,460,000	630,000	1.3万×35人×12か月
短期宿泊料収入	0	3,100	0	0	
寄付金収入	3,000,000	4,733,500	3,500,000	500,000	当期収支差額の黒字を前提に前年度予算より50万円増額
寄付金収入(一般)	3,000,000	4,000,000	3,500,000	500,000	
クリスマス献金	0	133,500	0	0	
特別寄付金収入	0	600,000	0	0	
雑収入	45,000	97,000	45,000	0	
特定費用準備金取崩収入	500,000	268,000	700,000	200,000	寮生活動支援及び黒崎賞に充当
事業活動収入計	29,645,000	33,298,878	34,515,000	4,870,000	
事業活動支出					今年度実績予測の反映
人件費	9,660,000	9,845,407	10,060,000	400,000	
賄材料費	3,200,000	3,500,000	3,900,000	700,000	食材費+賄い人件費が食費収入に相当
会議費・役員会雑費	130,000	80,000	130,000	0	
寮生活動支援・厚生費	680,000	1,268,000	1,400,000	720,000	うち感染症対策費約60万円、寮生活動支援費のうち50万円は特定費用準備金から充当
旅費交通費・車両費	320,000	143,000	250,000	-70,000	
通信運搬費	600,000	550,000	600,000	0	
消耗品費・事務用品費	550,000	820,000	800,000	250,000	
修繕費・什器備品費	800,000	1,120,000	900,000	100,000	談話室書架を含む
方舟刊行・印刷費	1,250,000	940,838	1,050,000	-200,000	学寮ニュース印刷費7万円を含む
講演会等諸雑費	150,000	409,756	550,000	400,000	入・卒業式、HOD設置、黒崎賞ほか
水道光熱費	2,750,000	2,770,000	3,120,000	370,000	電気・ガス割引に加入、値上りも見込む
広報費	1,200,000	1,100,000	1,200,000	0	がくるむ、毎日コムネット、HP
図書新聞費	80,000	104,600	80,000	0	日経新聞ほか
支払報酬料	1,100,000	800,000	1,100,000	0	税理士、社労士等
災害保険料・防災費	750,000	663,414	700,000	-50,000	建物損害保険料、防災点検
租税公課	350,000	359,550	350,000	0	固定資産税ほか
支払手数料・その他	1,030,000	838,400	1,110,000	80,000	入金手数料、振込手数料、寮生アルバイト
事業活動支出計	24,600,000	25,312,965	27,300,000	2,700,000	
事業活動収支差額	5,045,000	7,985,913	7,215,000	2,170,000	
II 投資活動収支の部					
投資活動収入	300,000	915,759	0	-300,000	
修繕等特定積立資産取崩収入	300,000	915,759	0	0	
投資活動支出	4,300,000	7,121,520	5,800,000	1,500,000	
特定資産取得支出	3,700,000	5,200,000	5,200,000	1,500,000	
建物再建特定積立資産取得支出	3,700,000	3,700,000	3,700,000	0	年度末計上予定
修繕等特定積立資産取得支出	0	1,000,000	1,000,000	1,000,000	同上
特定費用準備金取得支出	0	500,000	500,000	500,000	同上
固定資産取得支出	600,000	1,921,520	600,000	0	
建物取得支出	0	0	0	0	
建物付属設備取得支出	0	455,400	0	0	
什器備品取得支出	600,000	1,466,120	600,000	0	PC買換予定、空気清浄機
投資活動収支差額	-4,000,000	-6,205,761	-5,800,000	-1,800,000	
当期収支差額	1,045,000	1,780,152	1,415,000	370,000	
前期繰越収支差額	6,941,353	6,941,353	8,721,505		
次期繰越収支差額	7,986,353	8,721,505	10,136,505	2,150,152	

登戸学寮 寮友会 より

本会は男女や在寮期間を問わず原則として学寮生活を経験したOB・OGで構成され、創立者黒崎幸吉先生の登戸学寮建寮の趣旨を尊重し、会員相互の親睦と在寮生との交流、支援等を行うとともに、登戸学寮が末永く存続し続けるために必要な諸事業を支援することを目的として活動しています。

■寮友会会長再任に際して

石川 光（2003年入寮、登戸学寮評議員）

この度、再度寮友会会長を拝命いたしました。昨年度は主にコロナ禍や運営体制の交代によって生じた新しい寮友会のあり方を中心に役員会で議論を進めました。寮友会の役員は現役の方も多く、多忙な中、打ち合わせの日程を調整しながらできる限り頻繁に議論を行いました。今年度は議論を行動につなげることをテーマに、徐々に整理されてきた寮友会での議論を実行、実現に移す年にしたいと考えております。

世代間交流の促進と若年層の参加

寮友会の最大且つ喫緊の課題である高齢化と世代交代の遅れに対し、今年度は世代間交流の促進と若年層の参加をできるだけ多く促していく取り組みを模索し、実施して参りたいと思います。

世代間交流は、①現役寮生・寮との交流、そして②卒寮生との交流、の大きく二つに分かれます。役員会で提案があった施策もいくつか動き出しました。一つは、卒寮生への卒寮祝品などの贈呈、もう一つは入寮生歓迎を寮友会としても行うということ。これらはコロナ禍の制約を考慮しながら

らも接点を増やすという考え方で実施して参ります。単に祝うのではなく、受け手に喜ばれるように配慮し、寮友会や卒寮生と現役寮生を繋げることができればと考えております。

また、卒寮生と寮友会をつなぐ取組にも力を入れたいと考えております。コロナ禍で物理的に会することが困難な中、知恵を絞って卒寮生間、そして卒寮生と寮が繋がることのできるようなプログラムを考え、実施して参ります。

小さなことでも結構ですので、寮友会や卒寮生のコミュニティをこのように育ててほしい、このような取り組みがしたい等のご意見を頂ければ幸いです。至らない部分も多いですが引き続きご指導の程どうぞ宜しくお願いいたします。

連絡先：ishikawa.hikaru@gmail.com（石川 光）

■最近召天された卒寮生・関係者

- † 神田 順 様 2021年8月（1959年入寮）
- † 鶴原 建 様 2022年1月（1966年入寮）
- † 倉石重造 様 2022年1月（元寮長）
- † 金井 守 様 2022年3月（1972年入寮、当学寮理事、寮友会役員等）

大島恵美様を偲ぶ

牛嶋 仁（1979年入寮）

大島恵美様が2021年12月7日に召天された。ここでは、在りし日の交流を偲んで私の感謝の気持ちを記しておきたい。

大島恵美様（大島智夫元寮長夫人）は、登戸学寮の面接日に初めてお目にかかった。大島寮長（当時）からは、当時進展していた中東情勢について意見を求められたが、大島恵美様は、私が音楽を好んでいたことから入寮を勧めていただいた。その後、大島恵美様には、寮長夫人というよりも、音楽を通じて大変お世話になった。在寮中には、音楽談義のほか、演奏会にお供したことも

あった。特に、大学卒業直後の1983年3月、宝塚ベガホールでのリサイタルを拝聴したことが強く印象に残っている（その夜、大島智夫先生には、大阪の私の自宅にお泊まりいただいた）。その後、アメリカ大学院留学から一時帰国した際には、海老名のご自宅にお招きいただき、ニューヨーク・メトロポリタンオペラの演目などについて楽しいお話をさせていただいた。結婚式では、大島智夫先生の司式と恵美夫人による伴奏をご快諾いただき、遠路福岡までお越しいただいた。

大島恵美様は、常に穏やかで明るく、若輩の私にとって楽しくお話させていただくことができるよき理解者であった。大島恵美様の安らかな眠りをお祈り申し上げたい。

卒寮生インタビュー その2 楯 優作

在寮期間：2008.4～2012.3 ビール会社勤務（インタビュー後、広報部に異動）

—現在の仕事は？

ビール会社の社員として、スーパーやドラッグストアでビールの陳列をしたり納品数を交渉したりするフィールドスタッフのマネジャーをしています。ビール業界や商品知識を持っていない新人スタッフの方々にビールの製造工程や各商品の特徴を伝えて、お客様にお酒の魅力を語ってもらえるような人材を育成する仕事をしています。

—寮生活で印象に残っていることは？

当時は毎月、寮生の誕生日を祝う誕生日会がありました。その機会を通じて、話したことの無い先輩と話せて仲良くなれたことがとても嬉しかったです。寮の中では、風呂場と食堂が特に思い出に残っています。嬉しい時も悲しい時もそこに行ったら必ず誰かがいて、その日あったことを話すことができました。普段は寡黙なのに風呂場では饒舌になる先輩方がいたりして、入浴時間が1時間半くらいになることも多々ありました。

2010年、大学3年生の時に女子寮ができ、男子寮の雰囲気が変わりました。それまでは良くも悪くも“男子の寮”でした。身だしなみがきれいになるなど男子寮生の品が良くなったように思います。



母の日に中庭で
(2010年)

—学生時代に力を入れたことは？

韓国語の勉強と同世代の韓国人との交流を深めたことです。大学1年生の時に寮の紹介で日韓青年友和の会の第1回「訪韓の旅」に参加しました。韓国には小学6年生の時に地元の国際交流で一度行ったことがあったのですが、2度目も韓国の方々に感謝の気持ちを抱くことが多く、そこから韓国のためにもっと何かできないかと考えるようになりました。僕は中国語専攻だったので、それまで韓国語を一度も勉強したことがありませんでした。韓国の友人に協力してもらい、毎週末2時間、Skypeでマンツーマンの会話を続け、1年で日常会話を話せるようになりました。また



同期の韓国籍の寮生が2年間の徴兵に行く前に「韓国語を勉強するなら、徴兵から戻ったら1分間くらい韓国語で会話できるようになっているよ」と言いました。それも韓国語習得の大きなモチベーションとなりました。実際に彼が除隊した日に韓国で会ったのですが、すべて韓国語で数時間会話できたことは、大きな自信になりました。

—社会人になって役立っている寮での経験は？

多様性を受け入れることです。寮には、牧師を目指す人、海外に留学する人、引きこもる人など様々な人がいました。就職がすべてではない、一つの常識に捉われない、多様な価値観が存在することを深く感じました。寮には気の合う寮生だけでなく、気の合わない寮生もいました。好き嫌いに関わらず、付き合っていかなければいけない人がいるという、社会人になってからぶち当たるであろう壁を寮生時代に体験できたのは大きな経験になりました。

—今後の目標や夢は？

ビール文化を多くの人に広めていきたいです。それを実現するために、国内外のビールに広く深く精通した上で魅力を発信していなければならないと思っています。今はインプットとして日本ビール検定1級（受験者総数3万人超で1級合格者は現在累計数99人のみ）を取得。アウトプットとしては、ビアジャーナリストとしてWEBで情報を発信しています。日本ではビール離れ・アルコール離れと言われていますが、ビールの魅力がより多くの方へ伝わり、飲む量ではなく会話が盛り上がるコミュニケーションツールとしてビールを選んでいただけたら嬉しいです。

最後に登戸学寮にはとても感謝しています。寮で過ごした4年間で先輩、同期、後輩と家族のように親しい関係になれました。ここまで信頼できる関係は家族以外にきっと今後もないと思います。登戸学寮は僕の人生の財産です。これからも多くの学びと刺激に満ちた場所であってほしいと思っています。

聞き手：織田千尋

寄附者ご芳名

2021年8月1日から2022年3月31日まで（敬称略） 個人184名・11団体、総件数256件

（個人） 184名

青木 幹夫、青野 道、浅野 攝郎、安彦 忠彦、
有賀 実男、家近 宗男、池辺 秀成、石川 嗣郎、
石川 知生、石原 昌武、伊藤 康子、井上 眞一・
真理、岩沙 克次、岩田 堯、岩田 光法、轉 恵子、
内坂 徹、内田 祥子、梅津 光弘、宇和 喜代子、
越智 好、大内 信一、大川 四郎、大崎 桂介、
大城 ヨシ子、大園 正臣、大谷 陽・翠、大友 浩、
大山 綱夫、岡田 菊造、興津 修司、奥田 信夫、
小田部 哲哉、恩田 美和子、蔭山 和代、
笠原 千恵子、風間 文子、桂 秀次郎、金井 守・
直子、蟹江 雅彦、亀谷 勉、川田 殖、河辺 たづ、
岸本 尚毅、北川 紘一郎、北爪 文義、北村 寛、
木下 智雄、金 道殷、木村 秀夫、清永 丈太、
金城 清、久保 靖彦、久保田 修、熊川 忠、
黒崎 比佐子、黒崎 光子、黒崎 稔、Glodt 恵子、
幸野 道雄、小河原 貞一、小島 拓人、兒玉 實英、
兒玉 伸彦、小西 孝蔵、小林 敬久、小林 俊夫、
斎藤 義彦、坂巻 隆男、笹井 岩男、佐藤 勝輝、
佐藤 全弘、佐野 光郎、佐野 好則、渋谷 美登里、
島 創平、島 信幸、清水 亨、莊保 達雄、
白石 光一、白方 誠彌、白方 勇一、新宮 眞、
杉谷 魁、助川 暢、鈴木 康平、鈴木 守、
鈴木 喜晴、鷺見 誠一・八重子、須山 英三、
副島 志郎、副島 浩、田岡 啓之、高岡 健二、

高木 謙次、高田 暁治郎、高田 秀樹、高田 祐里、
高橋 賢治、高松 均、高柳 博一、武井 陽一、
竹内 朝日郎、竹内 弘之、武村 憲治、多田 義国、
田中 音葉、田仲 達雄、田中 知恵子、千葉 眞、
月岡 信裕、月本 昭男、土岡 和樹、鶴原 建、
東方 教子、徳光 猛、富井 直子、富永 尚、
鳥居 祝子、永井 和子、中向 添子、中村 真理子、
浪川 優希、西川 信義、西澤 正文、西野 勝、
西村 真、埜口 滋、野田 一三、野々瀬 浩司、
羽賀 道信、間 榮、橋内 武、端本 和子、
橋本 隆夫、花房 雅子、早川 真、原田 武信、
坂内 宗男、秀村 研二、廣田 隆俊、深澤 チエ子、
福岡 和子、福島 穆、福嶋 美佐子、福田 由美子、
藤田 ナツ子、古角 隆、星住 リベカ、星野 咲、
細貝 昭吾、本田 圭、前川 契子、松浦 宏允、
三浦 一幸、三浦 朔、三浦 永光・安子、
三田 洋子、三矢 恵津、三矢 尚、三宅 順子、
三宅 美枝子、宮崎 修次、宮崎 裕明、宮田 咲子、
武藤 陽一、森 孝、森山 浩二、安田 裕、
矢田部 千佳子、矢野 那奈子、山口 和彦、
山田 聖義、山本 鐵子、山本 直哉、横山 瑠泉、
吉原 賢二、吉村 薫、李 善利、我妻 耕一、
鷺崎 安久、匿名 3名

（団体） 11団体

あだたら聖書集会、浦和キリスト集会、
大阪聖書研究会、千葉聖書集会、
中央聖書研究会、国立聖書研究会、

天神聖書集会、那覇聖書研究会、浜松聖書集会、
福岡聖書研究会、無教会新宿集

【編集後記】 新緑の美しい季節となりました。
今年に入り、高校時代の恩師・風間文子先生、登
戸学寮の金井守理事が天に召されました。ご冥福
をお祈り申し上げます。歳を重ねていくと別れも
ありますが、たくさんのお会いもあります。3歳
の娘は人との出会いだけでなく、大人が気にも留
めないような小石や雑草との出会いにも心をと
きめかせます。子どもの“センスオブワンダー”に
感心します。世界に目を向けると、6人に1人の
子どもたちが紛争地域に暮らしています。子ども
たちの権利が守られることを切に願います。(C.O)

公益財団法人 登戸学寮

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区栞形 6-6-1

☎ 044-933-0819 ✉ noborito@gakuryo.or.jp

発行人 小島拓人

編集委員 千葉 恵、千葉美佐子、鷺見八重子、
岸本尚毅、大谷 恵、早川 嗣、織田千尋

発行日 2022年5月10日